

丹波市立看護専門学校関係者評価委員会

開催日時 令和3年5月27日（木） 13時25分～14時40分
場 所 丹波市立看護専門学校
委 員 （委員長）地域住民、（副委員長）本校の卒業生、本校在学生の保護者、実習施設職員、校長
事務局 副校長、事務長、教務主任、庶務係長

主な意見等

【Ⅲ教科課程経営】【Ⅳ教授・学習・評価過程】

- ・自分の行動がどのような思考から起こしたのか、自分を守るために起こしたものか等、自分を見つめ直し自分の弱みを克服する、フラットに考えて客観視できる人材の育成も大事。その思考過程ができれば臨床の場でも役立つ。
- ・自己概念にとらわれず広い視野と多角的な意見も取り入れながら自分を高めていき、自分の考えを広げていくというしなやかさも大事。
- ・国家試験は、全く臨床（実習）に出られない学校もあり苦勞されている。
- ・実習では、社会性の良い学生が多く感心する。ただ、レポートは誤字が多く、そのせいか何を書きたかったのか残念なところもある。
- ・多職種連携はそれぞれの職種の業務を知った上でチームで動いているが、分けてしまっている。経験していきながらにはなるが、チームで動くことの体験も必要。

【Ⅶ卒業・就職・進学】

- ・新卒看護師について「自ら考え判断し行動できる」というところを課題としているが、当校の卒業生が自己研鑽をする力や自分で考えて行動する力が弱いとは思わない。今年の新規採用者は主体的に学ぼうとする姿勢も高いように見受けられる。
- ・市内就職が少ない。市の奨学金が廃止されたことや、そのことで他市の奨学金を受けることなどが関係しているのではないか。

新築時に、この施設の良さとして、他者とコミュニケーションがとれる場を多く設けたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため使えていない。

自分と他人の違いを見つめ、もう一回自分に振り返るといようなことがこれから重ねていければと思う。

丹波市立看護専門学校

※以下に、自己点検・自己評価の総評を掲載

自己点検・自己評価 総評

【 I 教育理念・教育目的 】【 II 教育目標 】

※ 資料 1 参照

現代社会は、価値観の多様化、高学歴化、情報社会となっていることから、高度な医療技術や安全・安心な質の高い医療サービスの提供などが求められている。また、当校は市を設置主体として、「市内の医療機関や介護施設等への看護師確保対策」を目的に学校が設置されていることから、丹波市内や近隣の市町へ就職し、地域に貢献できる看護師の育成が求められている。

これらを踏まえ、教育理念では、丹波市の理念である『丹(まごころ)の里』を基盤として、①丹波市への愛着と誇りをもち、人としての思いやりのある看護師を育成していくこと ②丹波市内の病院を始めとして近隣の施設や地域で活躍できる看護師を育成すること ③的確な状況判断のもとエビデンスに基づいたアセスメントをし、対象に応じた看護が実践できる看護師を育成していくこと を掲げている。また、学校のポリシーを ①求める入学生像 ②カリキュラム編成の方針 ③卒業時の姿 ④教育の検証・評価の指針 として示し、到達すべき方向が理解できるようにしている。

教育理念、教育目的、教育目標は、教員・学生への指針となっており、令和 2 年度の卒業生の 91%が兵庫県内に就職し、そのうち 24%が丹波市内に就職している。今年度の市内就職率が少なかった要因は明らかではないが、丹波市内に就職する病院が少ないことが要因の 1つと考えられる。丹波医療センターや香良病院、大山記念病院等の実習病院への就職は、36%であった。丹波市の特色・魅力を伝え、市内に魅力を感じて、市内に就職してくれる卒業生を増やしていく事が必要である。

【 III 教育課程経営 】

※ 看護教育課程概要 P5、P6、P9、P10 参照

教育課程は、基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野 I、専門分野 II、統合分野の 5 つから編成し、国家試験の受験条件である『97 単位・3000 時間以上』の学習時間を確保し、『101 単位・3015 時間』で構成している。

カリキュラムデザインは、学生が学習内容を理解しやすいように、漸進的カリキュラムデザインを選択し、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなど、基礎分野、専門基礎分野で学習したことを基盤として専門分野に繋がられるように考慮した配列としている。

はじめて医療に関する学習を進める上で、学習内容が理解しやすいように配置できていると考えるが、講師の都合で科目内容が思うように進まない場合もあり、専門分野の内容が先行することもある。逆志向での学習ではあるが、振り返りとなり問題はない。

【 IV 教授・学習・評価過程 】

※ 資料1、看護教育課程概要 P13～P102 参照

授業科目に関しては、科目ごとにシラバスを作成し、科目目標、学習内容、学習方法、使用するテキスト、成績評価の方法を記載し、学生に提示している。学習が効果的に進むように、関連のある内容をまとまりとして配置しているが、講師の都合、科目の進度によって開講時期が離れてしまうことがある。できる範囲で科目のくくりを近い時期に開講できるように科目配置をする

必要がある。

専門分野の授業科目は、領域別看護学の担当者が中心的に担い、年度末に担当する看護学の内容を評価することで、看護学の領域や関連科目の領域での科目の重複や不足を確認できている。また、各自が責任をもって1つの領域看護学を担当するため、タイムリーな変更ができています。

【 V 経営・管理過程 】

※ 資料4

設置主体が丹波市であることから、県からの補助金、市の税金・地方交付税、学生の入金・授業料などを財源として運営が行われている。

2019年9月に校舎を新築移転したことで、学生がリラックスできるスペースや自己学習ができる場所が確保でき、教室、実習室のスペースも広くとることができ、学習環境は整っている。また、遠方から入学している学生に対しては、ワンルームマンション形式の学生寮を整備し、遠方からの学生を支援している。

実習施設は、同敷地内にある県立病院を中心に、公共交通機関で通学できる場所、通学時間が1時間以内の場所に確保し、学生の金銭的負担、時間的負担に配慮している。今後もしできる範囲で近隣での実習施設の確保をすすめていきたい。

【 VI 入学 】

※ 資料2、看護教育課程概要 P2～P4 参照

学校が求める学生像のアドミッションポリシーを作成し、それに基づき、11月に地域枠入学試験、1月に一般入学試験を実施している。入学定員40名に対して、地域枠入試は5名程度、一般入試は35名の入学を許可している。試験実施までに入学試験委員会を開催し、前年度の評価を行い問題点や改善点を明らかにして、試験実施に関する内容を検討、決定している。

【 VII 卒業・就職・進学 】

※ 資料3 参照

教育理念・教育目的・教育目標に従ってカリキュラムを運営し、学則に基づいて単位が取得できた学生に対して卒業を許可し、専門士の称号を授与している。入学した学生のうち年間7～8%は退学しているが、その理由の殆どは、学習を進めた上で、この仕事は自分に合っているかどうかを見極め、自分の進む方向を変えるための方向転換である。

卒業生の就職病院への調査では、社会人基礎力に応じた内容で教育担当にインタビューを実施した。その結果、実践力があり、言われてことは実施できているが、自己研鑽をする力や自分で考えて行動する力が弱いことが見えてきた。新校舎建設に伴い、校内各所にラウンジを設置し、他者との語らいの中で自己理解、他者理解ができるように場所を整えた。また、グループディスカッションができる演習室・研究室を複数設置し、アクティブラーニングができる環境を整えた。このように、他者との意見交換をすることで、自ら考え、判断し、行動できるように、アクティブシンキングの思考の育成に力を入れ、弱みを強みに変換できるようする必要がある。

国家試験の合格率は、全国レベルを上回っているが、今年度は、新卒レベルを下回ってしまった。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、臨地での実習時間が減少したこと

により、受け持ち患者を通して机上学習と現場での体験を結びつける機会が少なく、学びの幅を広げられなかったことが要因の1つと分析する。実習を学内に振り替え、シミュレーション機器を用いて状況判断や観察をする学習を行っているが、リアリティさには欠けるところがあり、臨地実習での学びの大きさを改めて痛感した。

国家試験に合格した卒業生には、学内で学んだ基礎学習が臨地での経験を経て思考が繋がるように、卒業後の教育に期待したい。